



赤小だより

10月号
令和4年9月30日
北区立赤羽小学校

もう一步先の未来に待つものとは

校長 山口 宗彦

爽やかな風が心地よく感じられる季節となってきました。

赤羽小では、9月15日(木)と16日(金)に全校写真会を実施しました。学年ごとに指定された題材(野菜や果物、楽器、自分の靴等)を、子供たちは思い思いに描いていました。できあがった力作の数々は、12月の展覧会で展示される予定です。ぜひご覧ください。

さて、「言葉」についての話題は、学校便りなどを通じて何度かお話させていただきました。人とのふれあいが難しい今の世の中だからこそ、言葉の大切さが身に沁みます。一日のはじまりの「おはよう」、食事前の「いただきます」、励まし応援し合う「がんばろう」、非を認め謝罪の気持ちの「ごめんなさい」、至福と感謝の気持ちの「ありがとう」など、互いを尊重し合う言葉は何気ない日常の中にあります。そんな「言葉」に加えて大切になることが、「未来を想定する言動」だと考えます。「未来」を考えずにした言動は、たとえ正義を貫くためだとしても、巡りめぐって自らを苦しめることに繋がることもあります。

たとえば、5人グループで1つの研究に取り組むとしましょう。最初は5人で仕事を分担してうまくできていたのですが、些細な言動がきっかけですれ違いが起こり、メンバーの1人が抜けてしまいました。グループに流れていたぎくしゃくした雰囲気はなくなり一件落着と思いきや、抜けた1人分の仕事を残った4人で分担しなければなりません。あの瞬間に発した言動さえなければ、もっと話し合っていれば、と後悔しても後の祭りです。

人との関わりの中では、未来を想定した言動が非常に重要となります。理性を捨てて、一時の感情で放った言動は、思いがけない結果を招くこともあります。もちろん、すべての事象を網羅することなど不可能です。人は一人で生きているのではなく、他者と関わっていかなくてはならないので、難しいですね。

もう一步先の未来を考えて行動する。傷つけ合うのではなく、互いを尊重し合う言葉を選ぶ。どちらも、一朝一夕で成し得るのではなく、日々の生活の積み重ねです。まずは我々大人が手本になって言動を振り返り、子供たちにも学校での集団生活を通して、学んでほしいと思います。学校と家庭、そして地域が、みんなで赤羽小の子供を健やかに育てていきましょう。

10月15日(土)には、いよいよ赤羽小の運動会が行われます。子供たちは今、保護者の皆様により演技を披露しようとして一生懸命練習に取り組んでいます。今年度も新型コロナウイルスの感染防止対策や制限を講じながらの実施となり、ご参観の皆様にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

10月の予定

3	月	A6	委員会(6時間目)	17	月	A5	運動会予備日② 那須事前検診(特)13:00-
4	火	A6	運動会係活動(高学年、4年応援団)	18	火	A6	那須宿泊学習(特)始
5	水	S5	運動会全体練習① 那須保護者説明会(特)	19	水	A4	那須宿泊学習(特)終
6	木	A6	運動会全体練習② 運動会全体練習予備日 マーチング(6時間目) 色覚検査(4年)	20	木	A6	マーチング(6時間目)
7	金	A6	終業式	21	金		運動会振替休業日
11	火	A6	始業式 運動会係活動(6時間目 高学年、4年応援団)	24	月	A6	なかよし活動(5時間目) クラブ(6時間目)
12	水	S5	運動会全体練習③	25	火	A5	
13	木	A6	運動会全体練習予備日 マーチング(6時間目)	26	水	A4	ハロウィン集会 避難訓練
14	金	A6	運動会リハーサル 運動会前日準備(6時間目 高学年、4年応援団)	27	木	A6	マーチング(6時間目)
15	土	A4	運動会	28	金	A6	1,2年生はA4 赤羽小アスレチックチャレンジ(6年)
16	日		運動会予備日①	31	月	A6	委員会(6時間目)
☆カウンセラー来校日☆ 中川SC ⇒ 6, 13, 20, 27日				今村SC ⇒ 3, 17, 24, 31日			

写生会を終えて



今年度、1～3年生は9月15日（木）、4～6年生は16日（金）の2日間で写生会が行われました。

1年生は野菜・果物、2年生は跳び箱、3年生は鍵盤ハーモニカとリコーダー、4年生はマイグッツ（校帽・筆箱・水筒）、5年生は靴、6年生はランドセル/リュックを描きました。

一人一人が各学年のテーマと向き合い、モチーフを画用紙の中にどう表すかよく考え、真剣に取り組む姿が見られました。1・2年生は目の前にあるモチーフを、クレヨンを使って元気いっぱいに描くことができました。3～6年生は市販されている絵の具の色そのままに着色するのではなく、パレットにたくさんの色を出して混色し、自分に見えている色に近くなるように追究していきました。

作品が完成したときには各クラスからやりきった声が聞こえてきました。イメージで描くのではなく、目の前のモチーフをよく見て、細かいところまで集中して制作する姿がとても素敵でした。

【図工専科 小林 実央】

始まる前は、失敗しないか心配だったけれど、実際にやってみると失敗がなくてよかったです。下書きのときは細かいところも書くように意識して下書きをしました。絵を塗るための色をなるべく本物の色に近い色を作るのが大変でした。

（5年1組 岸 拓磨）

自分でもうまくいくか分からなかったけど見本を見て大きく書いてみたら自分でもうまくできたと思いました。そして、先生からもアドバイスをもらって、僕も自信が出てきたので嬉しかったです。来年の写生会も自信をもって大きく書きたいです。

（5年1組 廣瀬 陽大）

くつはひもがあり他の物より難しいですが、影やくつひもの動きが出るように工夫しました。色は濃く塗るところはしっかりと塗り、薄くしたいところは水を多めにしました。あと、1回しかできない写生会です。来年は今年よりもっと納得できる作品を描きたいです。

（5年2組 綱木 愛里）

ぼくは、2つのポイントに気をつけながら描きました。1つめは大きさです。画用紙に大きく描くことに注意しました。2つ目は、背景です。ぼやけるように少し水を混ぜて工夫しました。一人一人描き方が様々で、面白いなと思いました。

（5年2組 平谷 柊太）

練習の時に、くつを描く位置が画用紙に上になってしまったので、本番では真ん中に描くことを意識しました。靴の色が白だったので、それぞれのパーツで少し違う白にするのを工夫しました。ちょっと難しかったけど、小林先生に教えてもらい、上手に描くことができました。

（5年4組 吉瀬 奏）

くつ底の、広いところとへこんでいるところを工夫して描きました。影を描くのが難しかったですが、練習で何回も描いて、本番では上手に影を描くことができうれしかったです。集中して、がんばって描くことができました。

（5年4組 渋井 絆斗）